



ペアやグループで話し合うこと目的は、次の学習過程に生かすことにあります。しかし、ペア学習やグループ学習で話し合ったことや育んだ言語能力が生かされず、その後の全体での話し合いが一問一答または教師対子供の1対1の関係で終わってしまふこともあるのではないのでしょうか。

「ペア学習」や「グループ学習」が生かされている時の子供の状態は？

自分の考えを確実に自分のものにして  
いる。

友達の考えを確実に自分のものにして  
いる。



友達との考えの違いや類似点を踏まえて、自分の考えを広げ、深めることができおり、話し合いの流れに応じて、臨機応変に発言できる情報をもっている。

教師ではなく、友達に向かって伝えようとしている。

「一問一答」から「一問多答」の授業づくりに向けて

「全体での話し合い」の意図を明確にして構想しましょう



「全体での話し合い」は、ねらいに応じて主に2つの時間があります。1つ目は、「思考を促していく時間」、2つ目は「思考を整理していく時間」です。何をねらいにするかによって、教師の関わり方も変わってきます。それが「一問多答」に向けた授業づくりにつながっていくはずですよ。



話し合いによって考えを練り上げていく「思考を促していく時間」は

※ 聞くこと・話すことが苦手な子供への配慮も必要です

子供達の思考を促していく時間であるからこそ、子供の思考の流れを止めない教師の関わりが重要です。



**子供の思考を促す教師の関わり**

- なるべく子供の発言ごとに板書することは控えるように心がけましょう。
- 教師は、子供同士での話し合いを促し、子供の聞く力を高めるためにも、子供の発言を繰り返し話さないようにしていきましょう。  
(子供の意識が教師の板書や発する言葉に向かかってしまうことが多いため)

前の友達の言葉につなげて話しましょう。



友達の方を向いて伝えましょう。

話し合いによって考えを吟味していく「思考を整理していく時間」は



今の話し合いでは、どのような考えがでてきましたか？

今の話し合いで分かった大切なことは何ですか？

**子供の思考を整理する教師の関わり**

- 前半の話し合いで表出した考えや意見や、大切なこと、分からないことなどを聞き返し、子供に本時の学習内容を想起させましょう。
- この時間に板書しながら、本時の学習内容を整理していくことも必要です。  
(子供の発達段階や実態、実際の子供の反応によって、教師の関わり方を変えていきましょう)